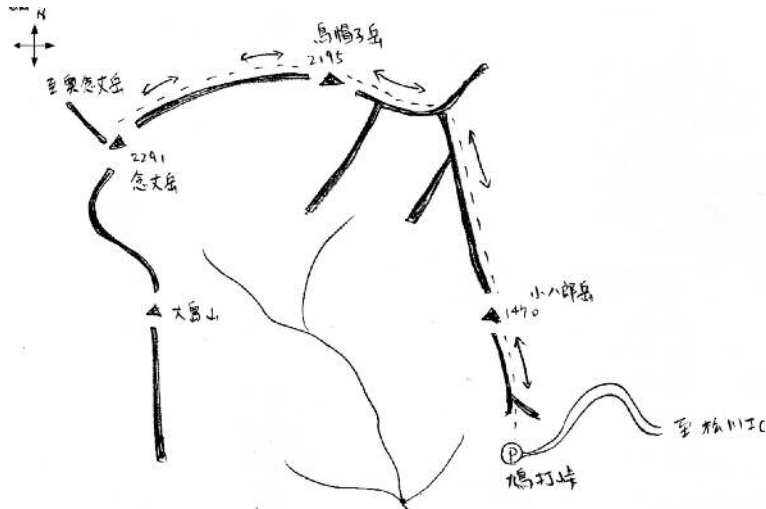


烏帽子岳

ひざの調子はいかが？

2017年9月16日

L: 齋藤



アクセス

中央道松川 IC 下車。最初の信号を北へ(県道 15)。宇寿田製菓を西へ。駐車場十数台駐車可。仮設トイレ 3 基あり。

9月16日(土)

今年中学に入学した長男がバスケット部に入部した。時間が空いた平日の夜はその練習に付き合わされ、こちらも一緒になって楽しんでいるうちに、どうやら右ひざを痛めたようである。痛みは2ヶ月以上続いているが、この痛みがあっても山に登れるのだろうか？と、ふと気になり、短時間山行でもして、ひざの様子を見てみようかと近場で景色が良さそうな山を探していたところ、花村さんが烏帽

子岳を紹介してくれた。

台風 18 号が九州付近をかなりゆっくりの速度で進み、これから本州に上陸しようとしていた。16日の午前中までなら、ぎりぎり天気もつか？と考え、仕事を終えてから急いで浜松を出発。前日入りの 21 時半頃、鳩打峠 P に到着した。

車内でいつも通りの仮眠をするのだが、今回から新アイテムの登場。助手席を倒したところに、パイプとベニヤ板を使って自作した簡易ベッド。寝転んでみるとなんとも心地よい。軽自動車の車内で足を存分に伸ばして寝られるなんて不思議な気分である。



荷物置きや食事台にもなる簡易ベッド

2時過ぎに起床し、3時前に登山口を出発。真っ暗だった。暗闇出発は慣れているつもりだが、なんだろうこの不安感。ひぎの心配？雨の心配？熊やハチの心配？もちろん熊鈴は取り付けていたが、なんだか心細かったので、初めてラジオを付けながら歩いた。ソロで来ているのに、風や木々の声を聴かず、人の声を聞いているようじゃ普段の生活と変わらないじゃんか思いながらも、どうしてもラジオのスイッチを消すことはできなかった。

時折雨が降ってきたが、びしょ濡れになるわけではないのでそのまま進み、まずは小八郎岳に到着。地図上では、ここから山頂まで傾斜を含めず直線距離であると3kmちょいってとこか。

登山道は念丈俱樂部という団体の方々がボランティアで笹を刈ってくれているようであり、とても歩き易かったが、なぜか所々刈られていない箇所もあって背丈ほどの笹を手で払いながら進んでいった。



たぶん小八郎岳と書いてある



念丈俱樂部の皆様へ感謝

真っ暗な笹の中で、登り一辺倒の山道。5時半頃になってやっと空が明るくなり始めた。ひぎの調子は良さそうだ。普段の山行よりも若干控えめな負荷水 7kg、そして賞味期限切れのエネルギーゼリーなどの処分すべきもので比較的重量がある食料を入れて 17kg オーバーのザックだったが、まあ登っている感覚はいつもと変わらない。

周囲が明らかに見渡せるようになったところ、岩稜帯が現れてきた。道が二股に分かれている。看板があり、右は上級者コースと書かれている。何を基準に上級者というのかな？よく分からないがとり

あえず右に向かってみる。



上級者コースは烏帽子岩とやらを越えていく

岩場を進んでいくが、岩が雨で濡れていて滑りやすい状況。手足に気を配り、集中して登った。烏帽子岩に着くと、そこから直線距離 20m ほどで烏帽子岳。山頂は風が吹いていて雨で濡れた身体には肌寒く、また全く展望もないので、3 分ほどの休憩ののち、下山することにした。



誰もいない山頂



本当は良い景色なのだろうに・・・

雨で濡れた岩稜帯を下るのは危険が増すだけだろうなと思い、山頂からの下りはもう一方の巻き道を使うことにした。岩場ではあるが滑落の心配はなさそうだ。

下山開始から 10 分ほどのことだった。気を張る箇所を終え、ちょっと安心したところで足を滑らせてしまい、左足首が岩に挟まった。まさにロック(?)。と同時に左すねを岩にぶつけた。大した痛みでは無かったが、念のためズボンをめくってみると「なにこれっ?」と独りきりの山の中、つい言葉を発してしまった。肉がえぐれていて、その奥に白い物が見える。まじですか。太い血管は切れていないので、これからじわじわと出血が始まるのだろう。すぐにザックを降ろし、えぐれた肉で傷口を塞いで絆創膏とテーピングで処置をした。下山を再開し、最初は 10 分程度ごとに出血量確認。問題なさそうだ。自分は止血が早い体質なので助かる。下りに 3 時間もかかって、出血が止まらないようなら一大事になるところだった。肉が切れたのは予想外で驚い

たが、当たり所が良くて本当に助かった。下山時の濡れた岩と木の根は要注意だ。あんな所で転んだ自分を悔やんだ。しかし「あんな所」を安易なものと考えて、気が抜けていたから事故が起きたのだ。危険はいつもすぐ近くに潜んでいるんだと反省した。時間の都合上、ソロ山行が多い自分は、より歩き方に気を付けなければならないし、医療品ももう少し充実させる必要があると感じた。単独で山に登るたび、山はいつも警告をしてくれる。ありがたい限りだ。

右ひざは下山中も多少の痛みこそあれど調子自体は良く、けがをした左足は痛みも出血も無いので少し気楽になって思う。肉が切れたのにファイントラックのカミノパンツ、全然破れてないな。神のパンツってこと？え、そうなの？そうなんじゃね？くだらない自問自答が頭の中で続く。

登山口に戻ったのは 8:30。予定では温泉で汗を流すつもりだったが、傷口がきれいなうちに病院に行くことにした。と、その前に小八郎岳、烏帽子岳の写真を、松川にある交流センターで見せると記念缶バッジを貰えるとのことだったので、立ち寄って無事にバッジを頂いた。松川の町並みも散策したかったが、今回は病院が先。また次の楽しみにしておこう。

さて、病院は飯田あたりにしようかな。とジムニーを走らせつつ、もし縫うのなら抜糸のことを考えると浜松まで戻った

ほうが都合いいな。と判断し、結局そのまま浜松へ向かった。

引佐に入ったところでスマホを立ち上げ、13 時まで診療している病院を探し、先生に診てもらおう。せっかくえぐれた肉で塞いである患部を、また剥がされる。

「あの…傷の奥に直径 3mm くらいの白い物が見えてると思うんですけど・・・」と聞くと、「脂肪かなんかじゃない？」と適当な返答。「なんかじゃない？」の「なんか」のほうは何よ、この先生で大丈夫？



絆創膏とテーピングさまざま

結局白い物が何かは分からなかったが、知り合いの元看護師曰く、筋膜や骨もあり得るが、たとえ骨が見えていたとしても肉で蓋して終わりよ。とのことなのでちょっと安心し、過ごしている。

受傷から 1 ヶ月が経過した。肉の再生にはまだ時間がかかるようであり、未だカサブタが取れていない。

<タイム>

鳩打峠 P(2:55)-小八郎岳(3:40)-烏帽子岳(6:18)- 鳩打峠 P(8:30)

(齋藤 記)